

# 奄美の風だよし

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

NO. 22

(秋号：6)

2005. 10. 10

A N C : News Letter



「ハギの花」 H17年9月撮影

日中の日差しはまだ厳しいものがありますが、それでもどことなく秋の気配が感じられるようになっていきます。

夏休みが終わるのを待っていたかのように9月初めに大型の台風14号が近海を通過していきました。海岸に面した所では木の葉が強い潮風を受けて茶色に変っていました。台風直後にセンターを訪れた観光客の方が「山のかなりの部分の木が枯れているのは何故ですか」と尋ねられたほどです。今は徐々に緑の山を取り戻しつつあります。

この時期の林道を通ってみますと、道沿いの法面にはハギの花が咲いています。花は小さいのですが濃いピンクの色が目をはききました。また、つる性のテリハノブドウは木の枝にからみついて垂れ下がり、緑色や淡紫色の小さな実をたくさんつけていました。

秋とは言い難いような気候が続いていますが、野の草花たちは確かに秋の訪れを告げています。

# お知らせ

## 第6回「やせいの生き物絵画展」の作品募集について

奄美の豊かな自然や野生生物に関心をもってもらおうと始めた「やせいの生き物絵画展」も今年で6回目となりました。今回は奄美の島々を囲んでいる海の生き物を描いてもらおうと、テーマを「奄美の海のいきもの」としました。

つきましては、下記の要項で作品を募集いたしますので、ご応募いただけますようお願いいたします。

### 【募集内容】

テーマ：「奄美の海のいきもの」

用紙サイズ：画用紙 B4サイズ

パステル、水彩絵の具、油絵等  
種類は問いません。

応募資格：小・中学生

(小学校3年生までを低学年とする。)

入選者発表：平成17年12月上旬予定

(本人へ直接通知します。)

締め切り：平成17年11月20日(日)必着

### 【賞】

いきもの大賞：低学年の部1名、高学年の部1名

あざやか賞：低学年の部2名、高学年の部2名

ユニーク賞：低学年の部2名、高学年の部2名

審査員特別賞：低・高学年を問わず2名

\* 応募者には参加賞を差し上げます。

### 【表彰式】

平成17年12月4日(日)午後1:30から

※以上、入選者には賞状と副賞を贈呈します。

応募作品は展示終了後郵送にてお返しします。

【絵画展開催予定】平成17年12月4日(日)～平成18年1月31日(火)

### 【送り先】

〒894-3104

大島郡大和村思勝字腰ノ畑551番

奄美野生生物保護センター・奄美自然体験推進協議会宛



# 協議会活動報告



## クラフト教室：「鳥凧を飛ばそう」

場 所：奄美野生生物保護センター（展示室）

日 時：7月29日（金）13:30～16:30

クラフト教室の様子

夏のふれあい行事の第1回目はクラフト教室「鳥凧を飛ばそう」をセンターの展示室で行いました。

最初にアクティブレンジャーの迫田さんが作業の工程を説明してから始めました。

次の順序で作っていきます。①まず、業務用の大きな透明のビニール袋にボール紙で作った型を写します。②ハサミで型を切りとっていきます。③油性の色マジックを使って絵を描いていきます。④絵を描いた裏のほうに竹ひごをセロテープで止めます。⑤鳥の体部分に爪楊枝で穴を空けて糸を通すと完成です。形は一緒ですがトンボやチョウなどが描かれた鳥凧が出来ました。早めに出来あがった子供さんは「早く飛ばせたい」と言って手に持って待っていました。

みんなの作品が出来上がるとセンター前の広場へ出て飛ばしてみました。順調に高く飛ばすことができ、上空を優雅に舞っている凧もありましたが、上がって行く途中で糸が絡んでしまい、何度も落ちてしまう凧もありました。それでも全員の鳥凧が上空を舞うことができうれしそうでした。空高くあがった凧の絵は工作中に見ていたよりも鮮やかに映りました。大きなビニール袋にマジックで色を塗っていくのは大変だったみたいでしたが、「楽しかった」と話してくれました。

工作が苦手な方にもできそうな鳥凧でしたので①～⑤の順で試されてみてください。



## 自然観察会「夜の海でウミホタルを探そう」

場 所：大和村津名久の防波堤

日 時：8月8日（月）19：30～21：00



ふれあい行事の2回目は、観察会「夜の海でウミホタルを探そう」を大和村津名久の防波堤で行いました。

観察会へ出掛ける前に、センターでウミホタルについて少し勉強してから現地へ移動しました。暗闇の中を電燈を照らして防波堤へと進んで行き、すぐ下の海へ目をむけてウミホタルが光る瞬間を待ちました。しばらく観察していると「あっ、光った、光った」との声が聞こえ始めました。光を確認した方向へ穴をあけて紐で結んだペットボトルを落とし海水をすくいあげます。光る生き物が採取されるとバケツへ移していきました。そして光る生き物たちをセンターへ持って帰り、研究室の顕微鏡とTVモニターを接続して観察しました。肉眼ではほとんど見えない小ささでしたが、顕微鏡を拡大してみると赤や黄色など色のついたカイアシ類がはっきりと見えました。子供たちはみんな画面にくぎづけ状態でした。画面で確認してみますと採取されたものはウミホタルは少なく、ほとんどがカイアシ類でした。海の生き物が光るのは、「ルシフェリン」とこれを分解する酵素「ルシフェラーゼ」という物質を持っていて、この二つの物質が混ざった時に美しい光が生まれるそうです。

参加した子供達は「きれいなので家に持って帰りたい」「光っているのが星みたいできれいだった」との感想を話していました。また、「子供の頃沖でよく見掛けたことがあり、そのしくみがわかりました」といった感想も聞かれました。海の光る生き物を近くで見ることができた貴重な観察会でした。

観察会の様子



「カイアシ類の仲間たち」



## 自然ふれあい行事「絆の森で遊ぼう！生き物クイズ競争」

場 所：蒲生崎、絆の森（笠利町）

日 時：8月22日（月）9:00～11:00

夏真っ盛りの8月22日に蒲生崎の絆の森（笠利町）で、ウォークラリー「絆の森で遊ぼう！生き物クイズ」を行いました。

森の駐車場でアクティブレジャーの永井さんがウォークラリーについて説明をし、参加者へ回答用紙を渡しました。天気のいい日でしたので午前9時にはすでに強い日差しが降り注いでいました。

森の中へは一斉に歩き出すのではなく、一組ずつスタートします。順番はじゃんけんで決め、最初の組が出発して数分間待ってから次の組は出発します。順路をたどって歩いて行きながら17ヶ所でクイズを解きながら先へ進みます。さらにスタッフが待機している4ヶ所ではゲームを行ないます。「クワズイモの葉っぱに松ぼっくりをのせるゲーム」や「王様ゲーム（石の重さを比べる）」などに挑戦しながらゴールをめざします。そしてゴール地点へ戻って解答用紙の採点をして順位を決めました。

森の中は木立に覆われていますので木陰にいるぶんには涼しいのですが、ゲームをして歩く散策コースは坂道がほとんどで、みんな汗をかきながら歩いていました。お母さん達は足早に走っていく子供達に追いついていくのが大変そうでした。

参加者は「ゲームやクイズが楽しかった」「勉強になりました」「植物や動物など自然をゆっくり観察できました」と話していましたが、普段の運動不足を感じましたと話されたお母さんもいました。

### ふれあい行事の様子



絆の森マップ



問題用紙



回答用紙

## クラフト教室「本物そっくり、面白キャンドルを作ろう」

場 所：奄美野生生物保護センター（多目的会議室）

日 時：8月24日（水）14:00～17:00

夏の自然ふれあい行事の最後はセンターで「本物そっくり、面白キャンドルを作ろう」を行いました。

キャンドルの作り方をアクティブレングジャーの中村さんが説明をした後に、参加者を3班に分けて作業を行いました。初めにキャンドルの形を何にするのか決めるのですが、センターで準備したサザエの貝殻を選んだ子供さんがほとんどでした。

まず、選んだ貝殻を糸で結び割り箸にくくりつけて牛乳パックにテープで割り箸を固定します。牛乳パックへ鍋で溶かしておいた寒天液を流し込んで冷凍庫で固めます。寒天が固まるまでの間に親子で一緒にろうソクとクレヨンをカッターやハサミを使って削っていきます。そして空缶に入れて液体になるまで火にかけてかき混ぜながら溶かしました。

そして冷凍庫に入れておいた寒天液が固まると、パックから取り出して糸で寒天を半分に開いて中の貝殻を取り出します。再び寒天を元の牛乳パックへ戻し貝殻の型をとった所へろうソク液を流し込みます。その時にろうソクの芯も忘れずに入れて再度冷凍庫で固めます。しばらく待ってろうソクの液体が固まり寒天を開くとキャンドルの完成です。

黄色やオレンジ色、青などカラフルなキャンドルが出来上がりました。

「きれいなキャンドルが作れて嬉しい」「とても楽しかった」「家でも作ってみたい」「寒天で型をつくるのがびっくりでした」などと感想が書いてありました。

子供さんにもお母さん方にも好評のクラフト教室だったようです。

クラフト教室の様子



## ウミホテルに歓声



大和村

### 夜の海で観察会 野生生物保護センター

大和村の海岸で野生生物観察会が行われ、保護センターのスタッフが指導し、参加者は夜の海で観察を行った。



保護センターのスタッフが、夜の海で観察会を開催し、参加者は夜の海で観察を行った。観察会では、保護センターのスタッフが指導し、参加者は夜の海で観察を行った。

**お知らせ**  
 鳥風クラフト  
 29日  
 鳥風クラフトを主催する、時間午後一時半から四時半まで、対象は小学生四年生以上(保護者同伴)で、事前申し込みの上、ハナミズキセンターにて開催する。申し込み、問い合わせは問センター055-8862100。クラフト教室「鳥風」は7月15日(日)から21日(土)まで開催する。先

**お知らせ**  
 ウミホテル  
 観察会  
 8月8日  
 大和村の海岸で観察会が行われ、保護センターのスタッフが指導し、参加者は夜の海で観察を行った。



### 野生生物保護センターなど

7月21日から8月20日は環境省が実施する「自然に親しむ運動」期間。環境省奄美野生生物保護センターと奄美自然体物産推進協議会が主催する自然観察会「絆(きずな)の森で遊ぼう!生き物クイズ競争」が22日、笠利町の蒲生崎観光公園であった。参加した親子連れらはクイズを解きながら、森の中を散策し、森の中に生息する生き物の姿に目を奪かれていた。

## 自然の豊かさ実感

### 親子が森散策、希少種も発見

親子連れが森の中を散策し、希少種も発見。観察会では、保護センターのスタッフが指導し、参加者は夜の海で観察を行った。

**絆(きずな)の森で生き物クイズ**  
 自然に親しむ運動を計画  
 環境省奄美野生生物保護センターと奄美自然体物産推進協議会が主催する自然観察会「絆(きずな)の森で遊ぼう!生き物クイズ競争」が22日、笠利町の蒲生崎観光公園であった。参加した親子連れらはクイズを解きながら、森の中を散策し、森の中に生息する生き物の姿に目を奪かれていた。

**お知らせ**  
 同センターの「生きものクイズ競争」が、8月24日（日）10時～14時、同センターで開かれます。

**満生崎の森でクイズ競争**  
 22日  
 同センターの「生きものクイズ競争」が、8月22日（日）10時～14時、同センターで開かれます。

同センターの「生きものクイズ競争」が、8月22日（日）10時～14時、同センターで開かれます。

## 楽しく「観察眼、養う」 「生きものクイズ競争」 満生崎の森 小学生親子ら参加

夏の盛りど心生き物や自然を題材にした「生きものクイズ競争」が、8月22日（日）10時～14時、同センターで開かれます。

同センターの「生きものクイズ競争」が、8月22日（日）10時～14時、同センターで開かれます。



在来の自然をテーマにしたクイズ競争が、8月22日（日）10時～14時、同センターで開かれます。

同センターの「生きものクイズ競争」が、8月22日（日）10時～14時、同センターで開かれます。

同センターの「生きものクイズ競争」が、8月22日（日）10時～14時、同センターで開かれます。

松ぼっくりやクワズイモの葉など、自然を題材にしたゲームやクイズに挑戦した



## 「本物の貝みたい」 面白キャンデル作り

本物そっくりに出上がった面白キャンデル

同センターの「面白キャンデル作り」が、8月24日（日）10時～14時、同センターで開かれます。

同センターの「面白キャンデル作り」が、8月24日（日）10時～14時、同センターで開かれます。

同センターの「面白キャンデル作り」が、8月24日（日）10時～14時、同センターで開かれます。

**野生生物保護センター**  
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
 TEL: 03-3568-2111  
 FAX: 03-3568-2112  
 E-mail: info@wildlife.or.jp



# 身近な生きもの情報

## 野生の生きもの観察日記

### 「秋の自然日記：土の中から森を見る」

穏やかな秋の日が続いています。昨年あれほど奄美に接近した台風も、今年は9月中旬時点で14号が接近してきただけです。昨年と同じ時期にはすでに4つ台風が接近した事を考えると少なく、『今年はデイゴの花があまり咲かなかったから、台風は少ないよ。』という島の人言葉が見事に当たっています。秋晴れの空の下では、この時期の風物詩である、アカハラダカの渡りが見られました（右写真）。朝鮮半島から対馬、九州と経由し、飛び石状に連なる南西諸島を南下していきます。気が付くとアカショウビンやサンコウチョウの声も少なくなり、秋の訪れを感じさせます。



ふつう『森で見た生き物』と言えば、鳥や哺乳類、昆虫など“cm単位”の生き物を指す事がほとんどです。しかし森の中、しかも土の中にはそれらを遙かに超えるたくさんの生き物（土壌動物）が生きています。土壌動物にはミミズのような目に見える物もいますが、大半は顕微鏡で見るような“mm単位”の小さな生き物です。鳥のように長い距離を移動する事はできず、森の中で長く生きてきた土壌動物たちは、例えば湿度や樹



木の種類といったいろいろな森の環境を映し出す鏡で、これらを見る事で“森の豊かさ”を測定できます。このように生き物を見る事で、ある場所の環境を知るという調査を『指標生物調査』と言います。調査では森の中の落ち葉や土を決まった量採集し、目で探したり、特別な装置（左写真；ツルグレン装置）を使ったりして土壌動物を採集します。動物ごとにあらかじめ決められた点数に従って、出てきた土壌動物に

点を付けると、その森の豊かさを推測できます。

採集した土壌動物たちを顕微鏡で見ると、本当にたくさんの種類がいる事が分かります。まだ名前の付いていない動物だっているかもしれません。普段見慣れていない生き物の種類を調べる事は簡単ではありませんが、面白い形をした土壌動物を見ると、自分が普段見ている森がその一部に過ぎない事を改めて実感します（写真右；豊かな森に住むヒメフナムシ）。



土壌動物たちは、森の中では落ち葉や生き物の死骸を分解し、速やかに土に返す役割（分解者）をしています。こうしてできた豊かな土で、また植物が育ち、動物が暮らす事ができるのです。あまり馴染みのない、一見すると“気持ち悪い”と思われるような土壌動物もいますが、奄美の森を作る大切なメンバーなのです。（センター 中村）

# ○ 奄美大島情報（寄せられた情報の一部です）



日 時:2005.9.27 16:20  
種 名:アマミノクロウサギ  
発見場所:非公開  
状 況:法面の排水溝上に糞塊  
目撃者: (山室)

日 時:2005.9.13 11:00  
種 名:アマミノクロウサギ  
発見場所:非公開  
状 況:糞を約201ほど目撃。  
目撃者: (西)

日 時:2005.9.23 12:00  
種 名:リュウキュウサンショウクイ  
発見場所:龍御町  
状 況:キビタキやコゲラの中に4羽いた。  
目撃者: (中村)

日 時:2005.9.17 23:00  
種 名:アマミヤマシギ  
発見場所:非公開  
状 況:林道上で目撃  
目撃者: (迫田)

日 時:2005.10.3 17:30  
種 名:カワセミ  
発見場所:思勝川  
状 況:番で喋って飛んでいた。  
目撃者: (細川)

日 時:2005.9.16 14:00  
種 名:リュウキュウヨシゴイ  
発見場所:大和村 フォレストポリス  
状 況:池の岸から飛びたった  
目撃者: (椎名)

日 時:2005.9.11 21:00  
種 名:アマミマドホタル  
発見場所:奄美フォレストポリス  
状 況:幼虫が光っていた。  
目撃者: (迫田)

日 時:2005.9.14 12:00  
種 名:ハマシギ、メダイチドリ、シロチドリ、ウズラシギ  
発見場所:笠利町の海岸  
状 況:  
目撃者: (中村)

日 時:2005.9.28 11:00  
種 名:ルリシャクショウ  
発見場所:奄美フォレストポリス  
状 況:花は一つ、枯れたのが2,3あった。(山室)

日 時:2005.9.18 8:00  
種 名:アカハラダカ  
発見場所:名瀬市朝戸峠  
状 況:100羽近くが渡った。  
目撃者: (西)

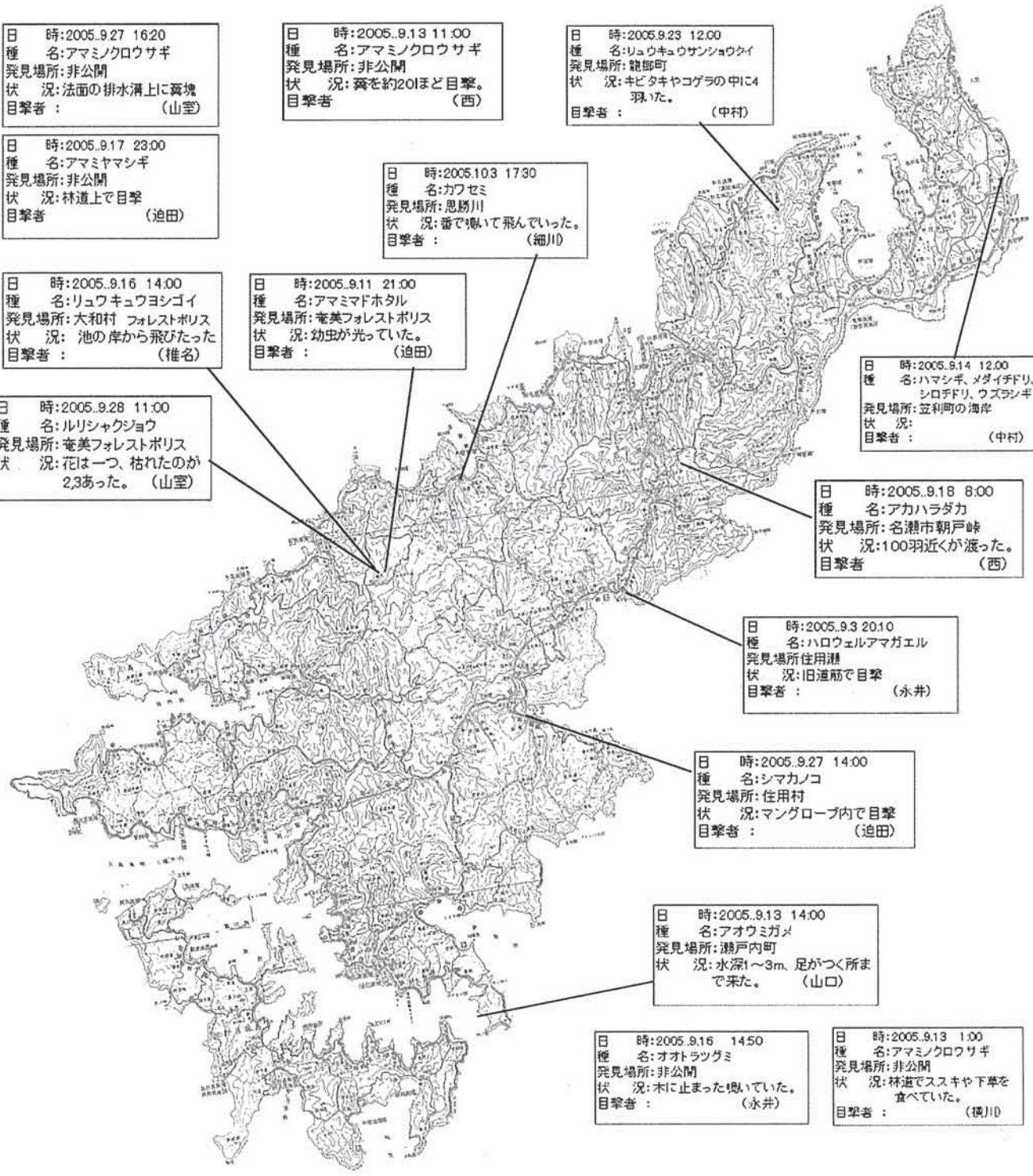
日 時:2005.9.3 20:10  
種 名:ハロウエルアマガエル  
発見場所:住用瀬  
状 況:旧道筋で目撃  
目撃者: (永井)

日 時:2005.9.27 14:00  
種 名:シマカノコ  
発見場所:住用村  
状 況:マングロープ内で目撃  
目撃者: (迫田)

日 時:2005.9.13 14:00  
種 名:アオウミガメ  
発見場所:瀬戸内町  
状 況:水深1~3m、足がつく所まで来た。(山口)

日 時:2005.9.16 14:50  
種 名:オオトラツグミ  
発見場所:非公開  
状 況:木に止まった塊っていた。  
目撃者: (永井)

日 時:2005.9.13 1:00  
種 名:アマミノクロウサギ  
発見場所:非公開  
状 況:林道でスキヤ下草を食べていた。  
目撃者: (横川)



1:250,000

## 秋にみられる野生生物

※参考文献：図鑑奄美の野鳥：山深フィールドフックス

「アカハラダカ」 タカ目 タカ科 全長 30cm

成長は頭上から背、尾、翼の上面が暗青灰色で、尾には数本の黒帯が出る。胸は赤色がかった淡い褐色で腹は白く、翼の下面も白っぽいが先端部が黒い。目は暗紅色で足は黄色っぽい。若鳥は頭から体の上面は黒褐色で、下面全体と翼の両おおいには斑紋がある。ツミとよく似ているが、成長、幼鳥共に閉じた翼の先端が尾の半分を超えないこと、目にツミのような黄色のアイリングがないことなどで区別できる。主に朝鮮半島や中国大陸の繁殖地から旅鳥として琉球列島を通過している。奄美では主に秋の渡りの時期に群れをつくって南下する。

鳴き声：キイーキイーキーなど。

記録時期：9月、10月



「イタドリ」 分布：日本各地

日当たりのよい山野のいたる所に生えるが、特に河原などの裸地化した場所に多い。山地でも崖などに多い傾向がある。春先に伸びてくるえんじ色の太い茎は皮をむいて生食するなど、山菜として利用する。雄雌異株で、雄花は白っぽく、花びらより雄しべが長く突き出る。雌花は緑色を帯びることが多い。茎の先端だけでなく、葉の付け根にも花がつく。

花期：7～10月



### 後 記

センターの裏山で鳴いているセミの声がミン ミン ミン、ジイー ジイー ジイーと事務所の中にも響いてきます。

今年もセンターと共催でやせいのいきもの絵画展(詳細は2ページに掲載)を開催致します。ご協力お願い致します。

**編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局**

〒894-3192

鹿児島県大島郡大和村大和浜100

大和村役場 企画財政課

TEL：0997-57-2111

(連絡・書類等送付先)

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551

奄美野生生物保護センター内

TEL：0997-55-8620

FAX：0997-55-8621